

2021/9/4-2

(うと Q 世話し 頼まれもしない解説)

再びこの一文。

「ダメだったらやり直せばいい。何度でもやり直せばいい。兎に角行ける処まで行ってみようよ」

前半が、弊社のモットーである「Never give up」の母体となったこの一文。

出る時は、するするっと出てきた自分のモットーであるこの一文。

読み手の方も違和感を覚えなかった様に思われるこの一文。

前半は結構力んでいるのに、後半は突如、力を抜いている、の感

前半については何となく道徳の時間を連想させるいわば「啓蒙ワールド」

方や後半は町内探検を思わせる「お散歩ワールド」

一見まるで違う雰囲気なのにそれが違和感なく繋がっているように見える。

一体何が二つを繋いでいるのか？

そこで思いついたのが或お方の言葉

「失敗はない。経験があるだけ」

と言う「あさっての方角」から飛んで来た様にも思える言葉。

その些か場違いにも思える言葉を、敢えてこの場に使った理由を、意識を用いてご説明申し上げます。

その前に前置きとして「失敗も又経験」とか「失敗こそ成功の母」等と言う洒落た美辞麗句をもっともらしく説諭しているのではない事だけは述べたさせて戴いた上で、

「結果が失敗であったかどうかの評価の話ではない。評価を抜きにすれば全ては経験でしかない(大切なのは、それを行ったかどうか。その行為から血肉を得たかどうか、だ) = 括弧内筆者付加」

と。

であるとすれば

「知識量 X 経験量 = 智恵の数と言う自分の定義から、経験量の多寡によって進める距離が変わってくる。

又、知識量も経験量も進みながら増やす事も出来る。

つまりそれらは常々変化するので日々進める距離も当然日々変わってくる」

であれば、

「どれだけ智恵を獲得して、その先のカオスを何処まで整理平定できるか。

それは自分たちの今後次第。

全ては現時点未知数なのだから、どれだけ進めるかは分からない。

でも、まずは駒を進めて、行ける処までは行ってみようよ」

と言う風に繋がるのではないかと。

その上で、どういう散歩になるかは「やり直し方」「やり直した回数」即ち

「経験量次第」

そこから得た

「智恵の質次第」

ということなのかもしれません。

チャラチャラしているようで結構「理」にかなっているのかも。

後半で述べたかったのは、それが前半の力んだ結果等ではさらさらなく、

前半で得た力が後半でその「後押し」をしている姿、

言うなれば

その後続く各場面で、最も効果獲得確率が高そうな

「のりしろ部分（伸びしろ）の現れ様」

の話しを申し上げたかったのかもしれません。

以上、頼まれもしない解説。

大変失礼申し上げました。